本棚

佐藤洋平・生源寺眞一　監修
中山間地域フォーラム　編

『中山間地域ハンドブック』

長年にわたり条件不利地域と見なされてきた「中山間地域」に新しい光が当たり始めている。

「中山間地域」の言葉が初めて公文書に登場したのは30年以上前の1989年度版『農業白書』とされるが、その後も人口の東京一極集中の流れは続き、中山間地域では過疎化がさらに深刻化していた。その根本にあった経済成長や効率性を重視する考え方が、近年になって気候変動や環境破壊が人類最大の課題として日本でも共有されるなか、持続可能性重視に転換しつつある。また、コロナ禍を契機として人々の価値観が変化し、デジタル技術の進歩もあって、若い世代に田園回帰とも呼ぶべきライフスタイルの変化が表れ始めている。

このような経済社会の大きな変化が始まり中山間地域が見直されようとしている時に、本書『中山間地域ハンドブック』が刊行された意義は大きい。

本書は以下の章構成となっている。

Ⅰ章「中山間地域とは、その歴史と課題」
Ⅱ章「データで見る中山間地域」
Ⅲ章「テーマで見る中山間地域の課題」
Ⅳ章「地域事例に見る中山間の近未来」
Ⅴ章「中山間地域再生のポイント」

すなわち、中山間地域の定義や概念、統計的な現状と動向の分析、政策や産業・暮らし・人材など36のテーマ別の切り口から見た実相、現場からの実情と挑戦の報告、そしてこれらを踏まえた提言まで、体系的に組み立てられている。中山間地域を知りたい・学びたい者にとって、本書は全体像を個々の具体的な事例も踏まえてリアリティをもって解き明かす、まさに決定版とも呼ぶべき総合的な手引書といえる。

本書を編集したのは、「中山間地域フォーラム」であるが、同フォーラムは、中山間地域に対する危機意識と再生・振興に寄与する熱意をもつ多様な人々が結集して2006年７月に設立された。そして、意欲的な現地の活動に呼応して支援の輪を広げていくことを目標として、ネットワークの形成、シンポジウム・研究会の開催、政策提言や都市への情報発信などの活動を孜々（しし）として続けてきた。

本書のⅠ章からⅢ章までは、長年にわたり現場とともに活動してきたフォーラムの運営委員会メンバーが執筆しているため、いずれも地に足のついた説得力のある解説である。そして、Ⅳ章の現場からの報告およびⅤ章の有識者の提言は、立場は各々異なっても同じ志をもって中山間地域の再生に取り組んできた方々ならではの実践報告と提言であり、多くの新しい発見や気づきを得ることができた。

全体を読み終えて、本書は「中山間地域ハンドブック」であると同時に、日本の現在と未来を考える人々の英知と熱意が詰まった書籍であると強く感じた。多くの人々に読んでいただきたい。

――農山漁村文化協会　2022年３月

定価1,980円（税込）180頁――

（代表取締役専務　柳田　茂・やなぎだ しげる**）**

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/